



今日からこの人と
同居生活を始める

親戚のりな姉ちゃん
20代 独身 社会人



念願の志望校に合格できた今年
親戚の家に同居させてもらい
そこから学校に通う事になった



2時間近くかかる通学時間に
俺が悩んでいた時それを知った
親戚の人達が偶々学校の近くに
住む人間がいるという事で
提案してくれたものだった

おかげで俺は安心して
春休みを過ごせたのだが
肝心の同居生活について
深く考える事を忘れていた



よく考えたら女性と
二人きりで同居って
普通の事じゃないよな

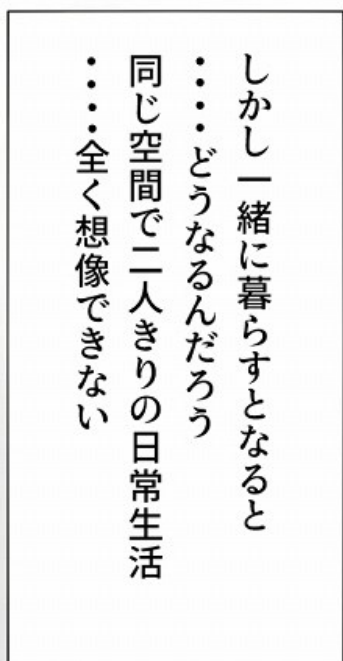
それが現実になろうと
してる今になって急激に
不安が大きくなってきた



りな姉ちゃんは家が近所で
昔からよく知っているので
別に一緒にいて緊張する
ような人ではない



しかし一緒に暮らすとなると
……どうなるんだろう
同じ空間で二人きりの日常生活
……全く想像できない



ココに
住んでるのか・

ここだよ

確か：仕事は
服屋の店員の
はずだけど：

未だにかなりの金額の
仕送りを貰ってる
らしいって聞いたけど：
どうも本当みたいだな

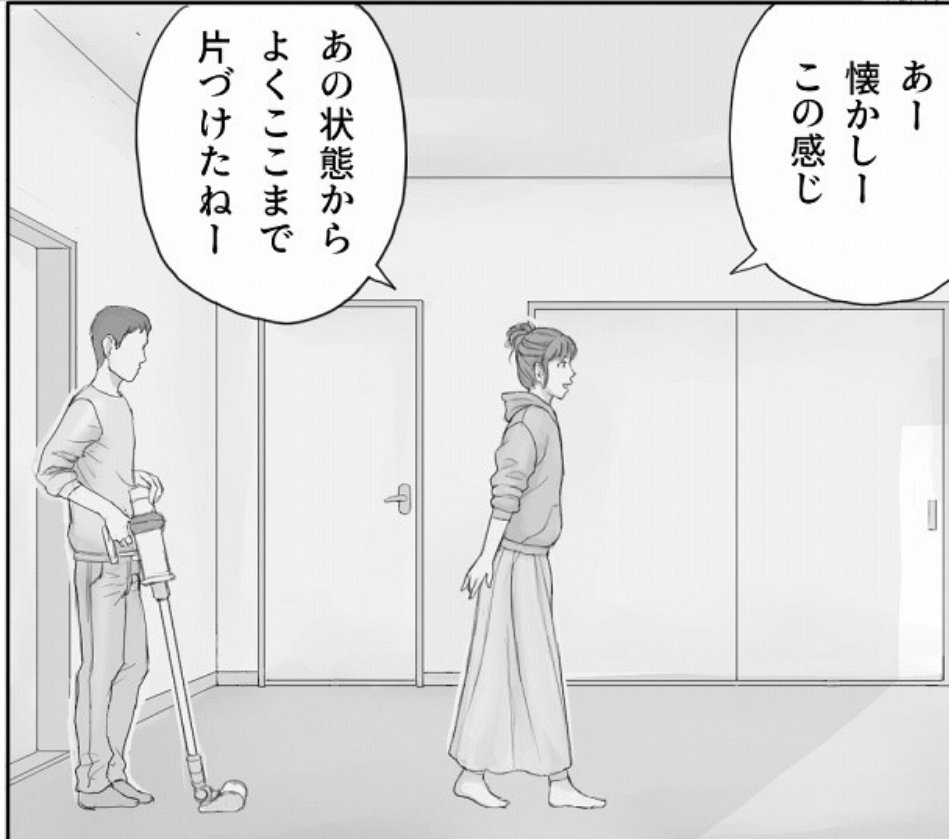
りな姉ちゃん
実はお嬢様なんだよな
全然そんな感じないけど
家が本物の金持ちだからな

うちの親も一応
同じ一族のはずだが
経済格差がすごい

部屋は
最上階だから







この机：
わざわざ家から
持ってきたのに

結局使わな
かったな：

まさかこんな形で
使う日が来るとは

なんとなく
捨てられなかったけど
良かったよ取っというて

ここ開けるのも
久々かも

ここに布団とか
入ってるから

捨てるの
面倒くさくて
入れっぱなしに
してたヤツだけど

あーでも
人が使ってたの
抵抗ある？

嫌なら新しいの
買ってでもいいけど

それとも
ベッドの方が
いい？

ベッド
買おうか？

え・いや
大丈夫です
この布団で

ついに始まった同居生活
最初から衝撃の展開で
思考が停止しそうになったが
どうにか乗り切る事が出来た
・・・と思う

初っ端からこれだと
この後いったいどんな事が
待ってるのか想像も出来ない
不安しかないが、とにかく
今はやっていくしかない

腹減ってきたけど
夕食は・・・
どうするんだろう



いつの間にか
部屋が暗くなっている
もうそんな時間か



冷蔵庫に
冷凍パスタとか
入ってるから
好きなの食べて

あと戸棚にも
カップラーメンとか
入ってるから



生鮮食品は
ほとんど入ってない



大量の
冷凍食品



りな姉ちゃん・・・
料理はいつさい
やらないんだな
まあ予想出来たけど

毎日こんなインスタント
食品しか食べない生活か・・・
これは相当問題あるな

風呂か：



冷凍パスタは
たしかに旨かったが
毎日これしか食べな・



なんで俺は緊張してんだ・
女の人が入った後の風呂・
いや、りな姉ちゃんなんだから
別に意識するような事じゃない



としたいけど
なんか・
とても嫌な予感がする

これは・
たまたま忙しくて
洗濯する暇が
無かったんだろう



翌朝

じゃあ

大体8時前
ぐらいには
帰ると思うから

あと
よろしくね

あ、はい
行ってらっしゃい

バタン

.....

彼女が仕事に行くと
誰も居なくなった家に
一人取り残される……

学校が始まるまでは毎日
こういう状況になるのか……
全然考えてなかった

これからどうする……
できれば掃除洗濯を
やりたい所だけど

女性の部屋を勝手に
いじるのはやっぱり
問題あるか……

昨日ちゃんと話を
しとくべきだった
でも居候の身だから
言いづらいんだよね

あとそういえば
食生活の問題もあったな
……

とりあえず寝室に
押し込んだ可燃ごみは
処分しても大丈夫だろう

それから食材の
買い出しに行くか





おいしー



んー

んっ



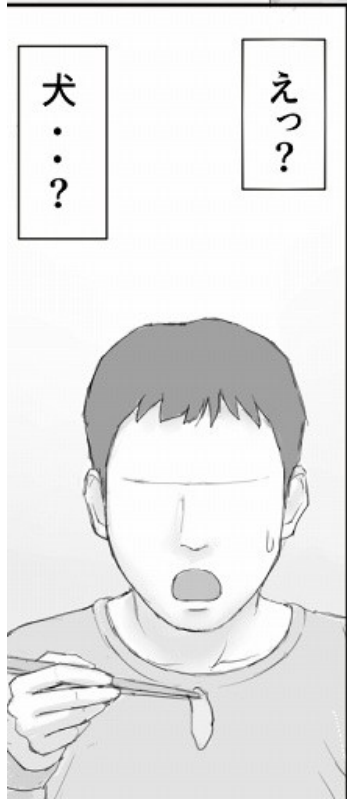
すごいねー

コウちゃん
なんでこんなの
作れるの？

料理
趣味なの？

いや
いつも普通に
やってる事なんで

親が仕事で家に
居ない事が多いから
必然的に・・・



犬・・・？

えっ？

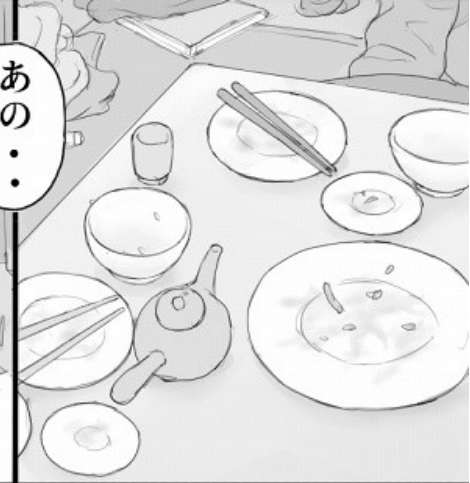


昔はさー
犬が怖くて
いつも私に
しがみ付いてた
あのコウちゃんが



えー
すごい

なんか・・・
知らない間に
立派に成長
したねー





とにかくそこに
なければ大体
寝室にあるから

あと：

大丈夫です
大体分かります

じゃあ
お願いね

いってらっしゃい

バタン

さてと・・・

やっとこの時が来たな

昨日了承貰ったからな
この家を思う存分
掃除しまくれる

まずは：

この溜まり過ぎの
洗濯物からだ

しかしすごい量だな
これは一回じゃ無理か

下着・・・

・・・
すごい汚れてる

あ：

いいんだよな
これも洗濯して・・・
許可はもらって
るんだから

でも・・・
一応女性だし
勝手に洗うのは
やはり問題か：

ズボンごとパンツ
脱ぎ捨てる様な人だし
まあ大丈夫か

洗濯ネット
どこだ？

ここを早く片づけたくて
たまらなかった

さあこの部屋だ

ブクッ

ブクッ

その辺にあるのは
洗わなくていいよ

まだ少ししか
着てないやつだから

：て言ってたけど
その辺で大雑把だなあ
とりあえず分からないのは
たたんで整理だけしとくか

簡単に考えてたけど
人の物を一つ一つ考えて
処理するのかなり大変だな

まあ生活費出してもらって
お世話になってる身だから
これぐらいの事はやって
当然で全然苦ではないけど

.....

いや・・・違うな
本当は自分が
汚い部屋が嫌なんだ

自分が嫌だから
自分の為に勝手に
掃除してるだけだな：



めちやめちや
キレイに
なってる！



うわー



そんなに無理して
やらなくていいのに

ちょっと・・・
これすごい時間
かかったでしょ



えー
なんかもう・・・

スツキリしすぎて
違う部屋みたい



いやホントに
時間はいくら
でもあるんで

これぐらいは
全然問題ないです

下着とか洗ってしまった事
ちょっと心配だったけど：
この人は何とも思わない
タイプみたいだな：



あつ

洗濯物

もしかして：

全部やったの？
掃除も洗濯も



自分の勝手な価値観で
人の生活環境を
変えてしまった事に
少し不安もあったが

床もすごいね

ピッカピカに
なってる

とりあえず
りな姉ちゃんは
喜んでくれてる
みたいなので
まあ良かったか



昔の日記は
本当に恥ずかしい
ヤツだから：

見たら絶体
ダメだよ

いや：それなら
ちゃんとした場所に
保管すればいいのに

はい…
あ

何見られても平気な
人かと思ってたけど
ダメな物もあるのか：



コウちゃんさー

料理何でも
作れるの？



まあ：
ネットの
レシピ通りに
作るだけなら
大体は

勿論材料無いと
無理だけど

じゃあさ
明日一緒に
買い物行こうか

仕事
休みだから



あー
どうしようか
グラタンか：
ドリアか：

でもシチューもいいし
鍋も食べたいし・

あつ待って
おでんセット
あるよ

うわー
おでんも
いいなー

あーだめだ
決めらんないわ

コウちゃんは
どれがいいと思う？

あつ
ホント？

毎日違うの
作ってくれるの？

えーと・・・
とりあえず今日は
もうグラタンにして

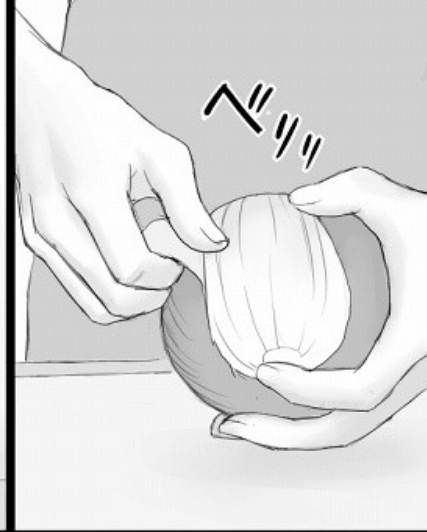
その他のヤツは自分が
明日から順番に
作っていきます・

まるで子供みたいに
高いテンションで
夕食を何にするか
迷う姿に少し驚いた

最近全く料理
してないから

毎日料理する発想
頭に無かったわ

食に対していい加減な
人なんだと思ってたけど
本当はちゃんとした物が
食べたかったんだ：





初めて二人で
作ったのに全部
うまかったよ

予想以上に
おいしく出来ると
すごいうれしいね



んー

これも
完璧じゃん



今日は何食べようか
何作ろうか考えるの
楽しかった頃があったわ

なんか：
久々にこの感じ
思い出したかも



最初不安があったが
りな姉ちゃんがいいるの
料理の事知ってたんで
簡単に出来てしまった



なんていうか
明るくなったって
いうか：

コウちゃんが
来てからさー
なんか一気に
変わったんだよ



何で私：
料理しなく
なったんだろ：



やっぱり一緒に
暮らす人がいると
全然違うね

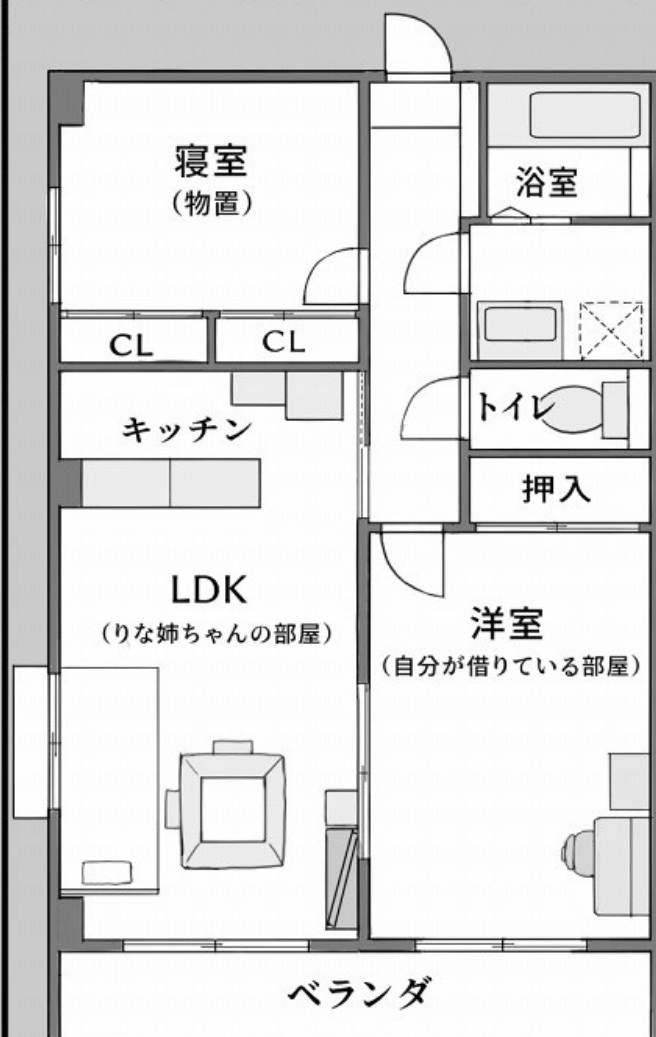
すぐに春休みは終わ
り人生初の実家以外から通
う学生生活が始まった

起床時間は一気に早くなり
りな姉ちゃんが起きる前に
家を出る事が多くなった

自分の部屋からはリビングを
通らずに大体の場所に行ける為
彼女の眠りを邪魔する事なく
朝の準備は一通りできる

キッチンに入る時は少し
気を使うがそれ以外の事は
なんの問題もなく行える
洗濯物を干す事だって出来る

自分の部屋といっても引き戸で
仕切られただけの空間だが
ちゃんとプライベートな環境が
作り出されるので問題ない



学校から帰ったら掃除
洗濯物取込みなど一通り
済ませて夕食の準備に入る
夜、彼女が帰ってきてから夕食
その日初めて顔を合わせる

彼女と同じ空間で過ごすのは
夕食時とテレビを見る時だけで
それ以外は自分の部屋で普通に
気兼ねなく過ごす事ができる

初めはどうなるかと思っていた
同居生活だが慣れてしまえば
意外と普通に出来るもんだな
とこの時は思っていた
夏が来るまでは：

6月

うわっ

夜なのに
こっちの部屋
すごいわ

やっぱりこっちにも
クーラー付けないと
ダメだね

いや
まだ

扇風機で
いけない事も
ない：かなと

本当はもう扇風機では
追いつかない所まで来ている
正直言ってクーラーは
喉から手が出る程欲しい

しかし生活費のほとんどを
出して貰っている状況で更に
自分一人の為にクーラーまで
付けさせるのは：

じゃあもう：

ココ
開けたままに
しよっか

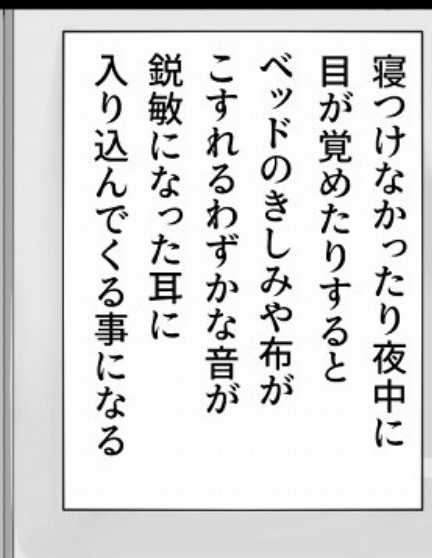
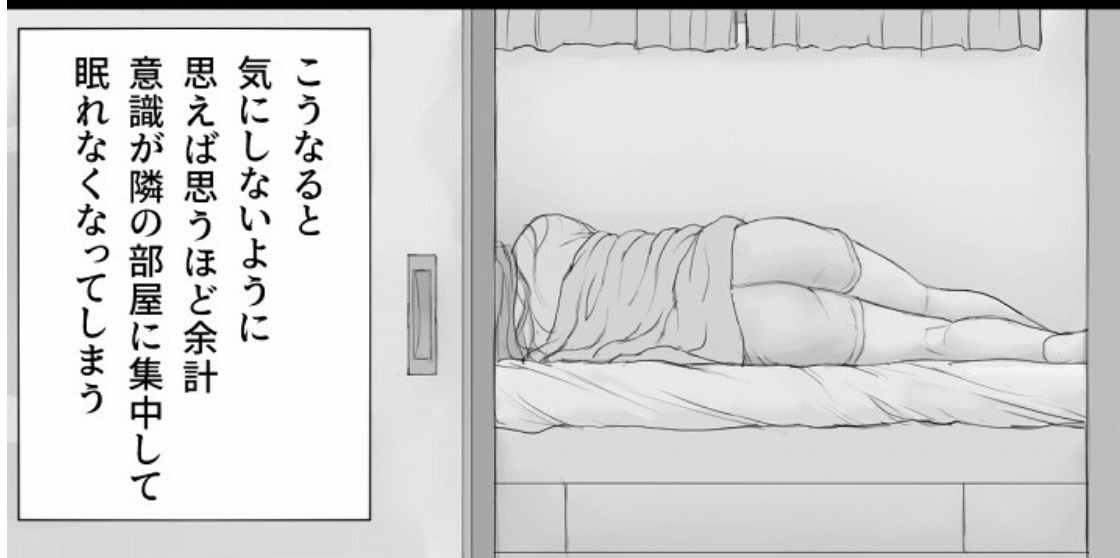
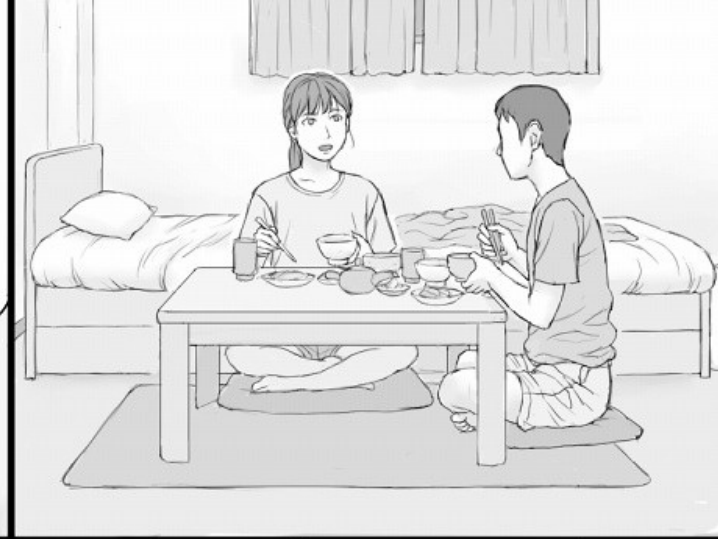
これでこっちの
部屋も一緒に
冷やそう

この暑さだと
今日寝れない
でしょ

とりあえずこれで
やってみよう

こうして引き戸を開けたまま
過ごす生活が始まると
隣からの冷気の恵みによって
環境は劇的に改善された

夏の初めでこの暑さなので
早めに解決できて助かった
しかし壁の一部が消えた事で
それまであった一人だけの
空間は失われてしまった



そしてそんな夜を
何回か経験した時
事件が起こる



なんだろうこの音・・・
さっきからずっとしてるけど
ベッドの上で何かしてる？



音に全神経が集中する
.....

かすかに声も聞こえる
この声・・・なんか・・・



急激に鼓動が早くなる
何で興奮してんだ
何を考えてんだ俺は

何なんだ？ いったい
何をしてるんだ？
りな姉ちゃんは：



何してるのか
ハッキリさせるには

実際に見るしかない

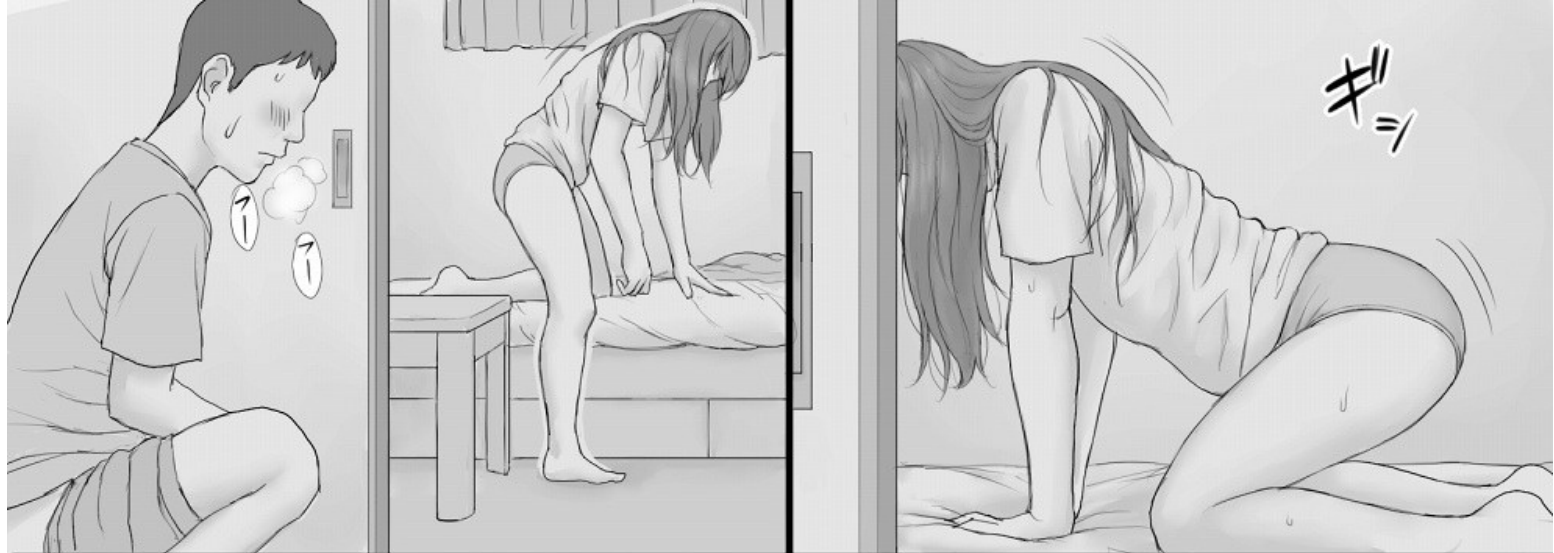


何か考えるより早く
ズボンを下ろして
アソコをしごいていた



経験した事の無い
異常な興奮・
どうかなりそうだ







濡れてて…生暖かい…
パンツの…布の感触…
すっごい気持ちいい…



ついさっきまでこの布に
直接触れてたんだ…
アソコが…濡れたアソコ…
りな姉ちゃんの…

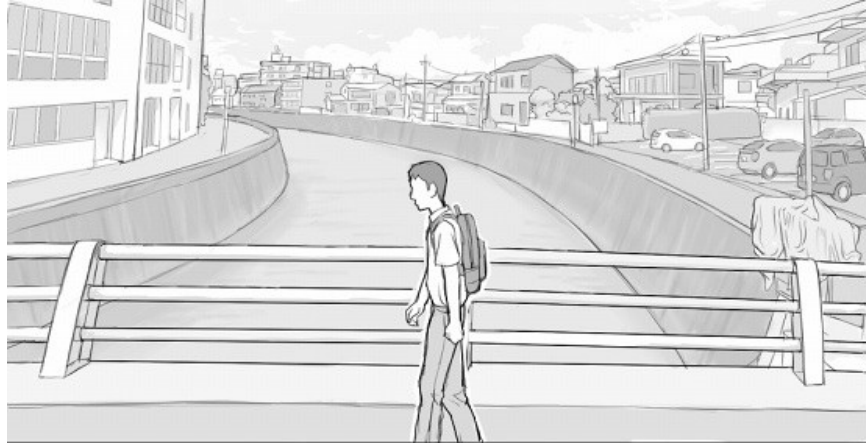


なんで俺はこんな
こんな異常な事を…
とにかく今は忘れて寝よう
明日やるべき事の為に…



明日は早めに起きて
全部洗濯して全部綺麗に
して…それから…





早めにセツトした目覚ましより
更に早く目が覚めてしまった
朝やるべき事は全てやったはず
だが記憶がぼんやりしていて
自信がない

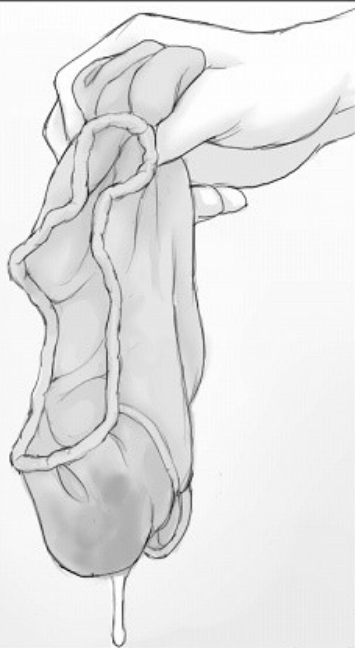
頭がちゃんと動いてないんだ
なんであの時俺はあんな・
あんな異常な状態に・
ずっとそればかり考えて
外の事に気が回らない



あまりにも衝撃的すぎたんだ
あんなの初めての経験だったから



誰だって初めての時は
戸惑うものじゃないか
それでうまく対応出来ずに
失敗する事だってあるはず



大事なのはこの事件を
教訓にして同じ過ちを
犯さないようにする事だ



一度経験したから次は
冷静に対応出来るはず
たぶん・大丈夫だ

無理やり前向きな方向に
もっていこうとしたが
嫌な予感は消えなかった



そしてまた何日か
過ぎたある日の夜

彼女は友達から貰った
お土産を持ち出してきた

せっかくの
もらい物だし

ちょっと
飲んでみますか

どうせくれるなら
お菓子とかの方が
良かったんだけど：

うわっ

すごいおいしい！

めっちゃめっちゃ
飲みやすい

たぶん
コウちゃんも
飲めるよこれ

飲んでみる？

いや

無理ですね
未成年なんで

グク グク

いやー
ホントおいしい
今まで飲んだ中で
一番かも

アルコール24%って
書いてあるけど
こんなにグクグク
飲むものなのか？

ようするに私があ
言いたいわけあ

えーと...

あれ...あれよほらあ
あのお...何だっけ...

分かりやすく
酔っぱらったな

あー

もう9時
過ぎてんじゃん

お風呂...

お風呂
入らないと...

ヨロ

あの...

酔ってる時に
入らない方が
いいんじゃない...

エラ

あー

大丈夫
大丈夫

エラ

そんなに酔って
ないから...

ダン

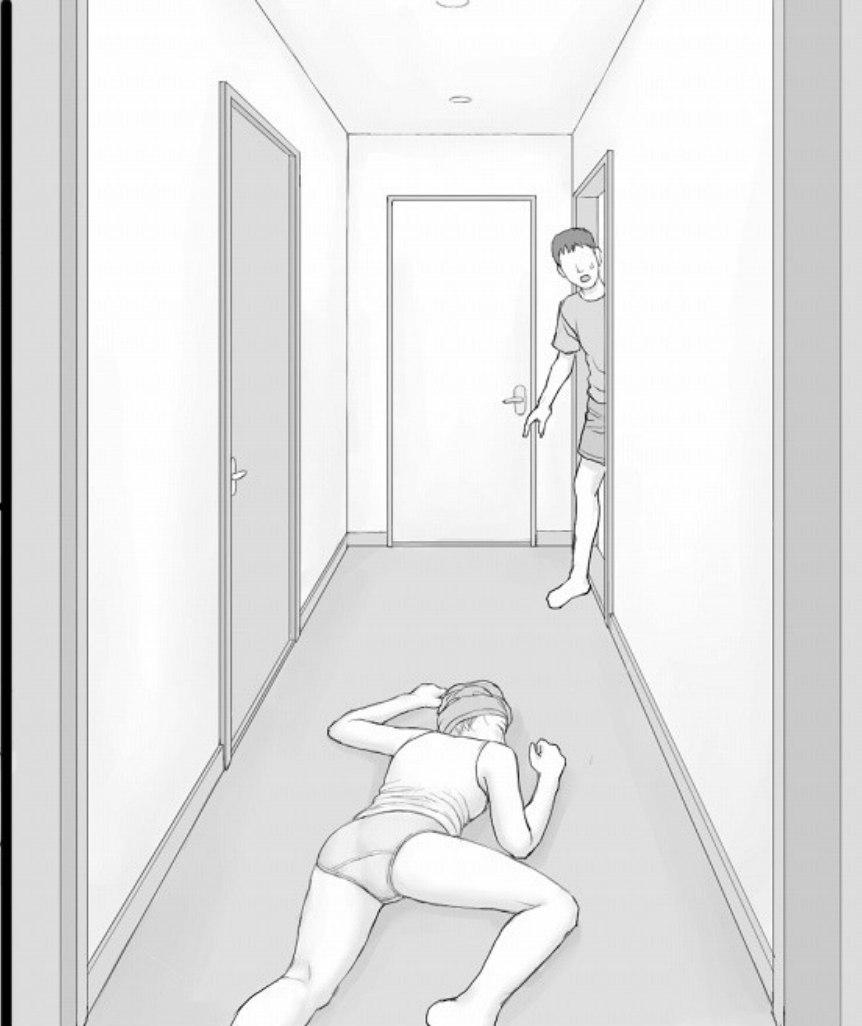
思いつきり足に
きてるけど...

...

けっこう時間たったけど
出てこないな...

ドン
ドン
ドン

!?





風呂
上がりの：

いい匂い：

すごい：

ああ：



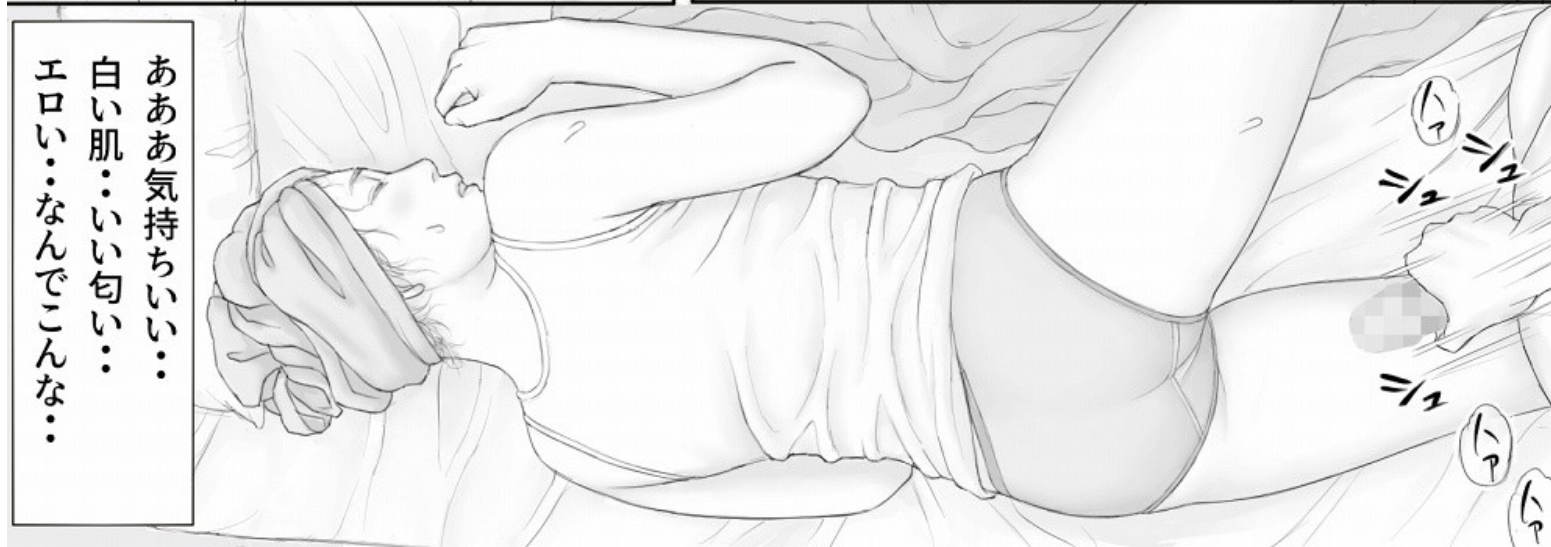
りな姉ちゃんの体：
こんなに
柔らかいんだ：



なんでこんなに：
いい匂いが：体から：

んん：





パンツ：
パンツの中

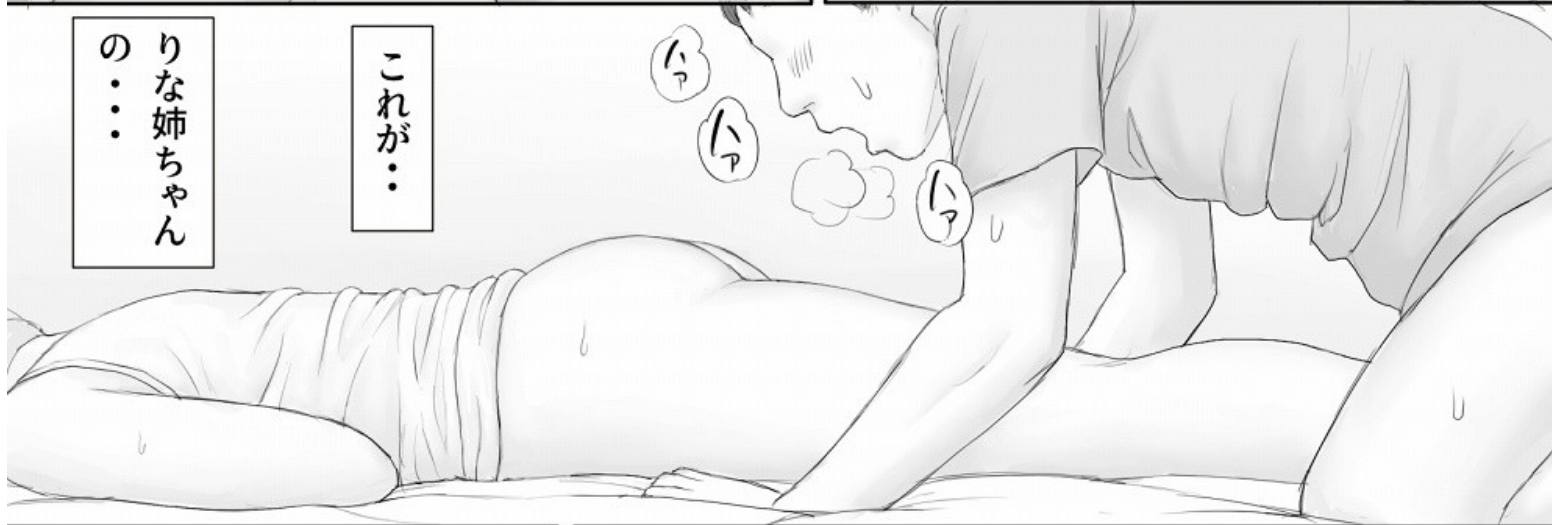


見たい
あそこ：
本物のあそこ



これが：

りな姉ちゃん
の・・・



毛がすごい：
でもいい匂いだ
洗ってるんだ
こんな所も：



部屋の掃除は
しないで：

自分の体はこんなに
きれいに：





こいつを…
擦り付けたい
あそこに…



こんな事
ダメなのに…
異常に興奮する

ああ…
りな姉ちゃんの
あそこ…



これ…
ここに
入るのか…

どうなるんだ
入れたら…



入れ…

あっなんか…
入りそう
えっ入る？



あっ…
入ってく
入って…

えっ…
これ入っ…
入ってる？

ああ…
中…
あったかい

すごい…
なんだ
これ…

グイ
グイ



すごい…中が…
動いてる…中…



んん

あああすごい
気持ちいい
気持ちいい

入ってる：
りな姉ちゃんの
中に：俺のが：

ズッ
ズッ

ズッ
ズッ

ズッ
ズッ

お尻：めちやめちや
やわらかい：お尻

グニ

グニ

あー
いい匂い

ズッ
ズッ
ズッ

ダメだこんなに
激しくしたら
ダメなのに
もう止まらない
腰の動きが



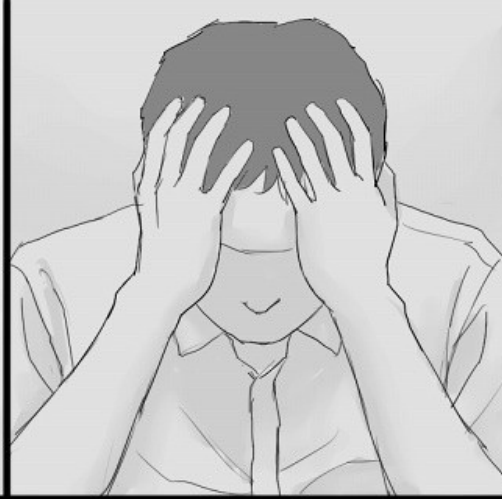
ああああ
もうきた!
ヤバイヤバイ

ん ん ん

あーもう
だめだ!
でるでる

ギン ギン





特に終わった後どうしたのか
全く覚えてないのがあり得ない
朝も普段と何も変わらなかった
これって夢特有のヤツだよな
そうだ・・・そうに違いはない・・・



昨日の事は夢だったんじゃないか
記憶がぼんやりしてるし・・・
なんとなく現実感もない・・・



朝からずっと
考え続けている・・・



彼女の記憶にだけは
残っていないでくれ！
たのむ！

たのむ・・・夢で・・・
夢であってくれ！
最低でも・・・





しなければ…



しなければ
ならないのに…



だめだ…



どうしても意識が
いってしまふ…
彼女の体に…



前は平気だったのに
あれ以来…何かが
おかしくなってしまった



これは…まずいな
どうにかしないと…
やはりオナニーして
もっと抜くべきなのか…



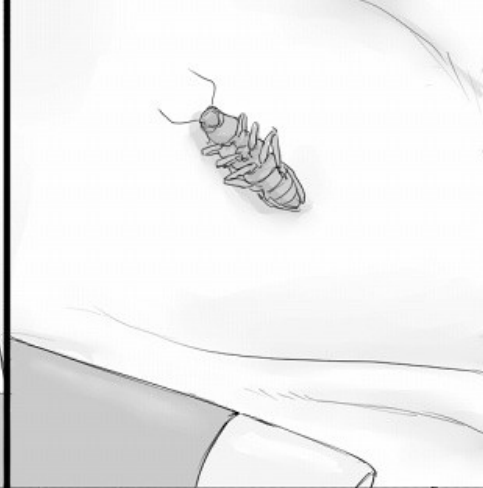
いや…それをやりだしたら
もう歯止めがなくなって
更に悪化する様な気がする

考える事自体ダメなんだ
意識して頭から排除
する様にしなければ…



そしてまた何日か
たったある日の夜





えー
なんか：

まだ
やな感じが
する：

何か
付いてない？

コウちゃん

ちよつと
背中見てー

大丈夫？

あー
えーと：

ドゥドゥドゥドゥ

すごい…いい匂い
風呂上がりの…
女の人の：



抱きつきたい：
りな姉ちゃんの：
柔らかい体：



思い切り抱きしめて
匂いを嗅ぎたい：
体の匂い：直接：

めっちゃめっちゃ柔らかい：
柔らかくて：暖かくて
すごい：いい匂い：

えっ：

ボディソープの匂い：
シャンプーの匂い：
直に嗅ぐと強い匂いが
鼻の奥まで入ってくる

あ：

何なんだ：この服の感触は
ただの布なのになんで
こんなに気持ちいいんだ

ダメだ：もう：頭が：
頭が完全に支配される：

もう：何もかもが：
全てが魅惑的すぎる：

ビクッ

ビク

ビクッ



すべすべの肌…
異様な滑らかさ…



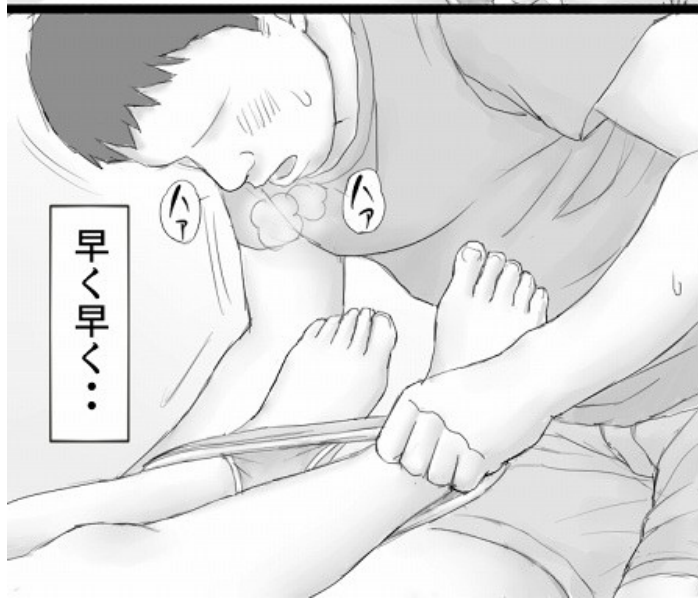
…



女の人の体…なんで…
こんなに白くて綺麗なんだ…



この中…
この下に…



早く早く…



これを脱がして
見たい…今すぐ

見たい

あそこ…

ズリ







すごい…気持ちいい…
太もも…柔らかくて…
重くて…もちもちで…



入ってる…アソコが…
りな姉ちゃんの…
この体の中に…俺の…



もう：止まらない：腰が：
気持ち良すぎる：ダメだ：



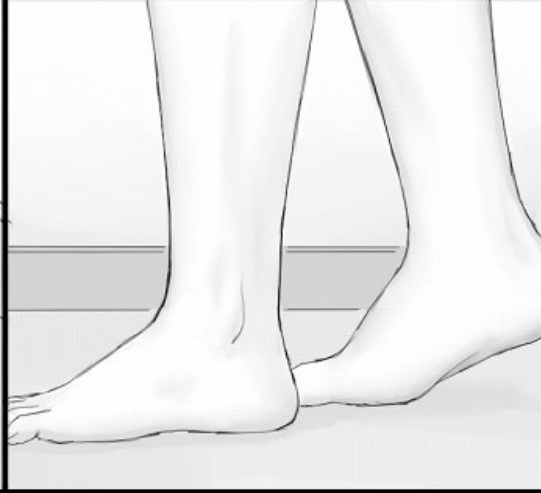


：俺は：

何しようとしてたんだっけ：

・・・

そうだ：風呂
入るんだった：



結局：

失敗したんだな
俺は：

自分では：

ちゃんと
出来てるつもり
だったけど：



見てはいけない物は
見ないようにして：



考えてはいけない事は
考えないようにして：



色んな事を自分の中で
理性的に処理して：

自分はこの同居生活を
うまくやれている
そう思っていた：

でも実際は…

そうじゃなかった

実際は処理なんて出来ずに
ただ見えない奥の方に
押し込んでるだけだった

色々な事をただひたすら
押し込んで溜め込んで

限界まで溜め込み続けた
あげく破裂させて

自分を制御する事も
出来なくなってしまうた：

そして俺は：

絶対にやっては
いけない事を：

・・・

今日はもう：彼女と
顔を合わせる事はない

明日… 俺は：
どうすんだ：

次の日 夜

テストあるなら
勉強の方
優先しないと

家事は無理して
やらなくていいから

いや全然
大丈夫です

テスト勉強
なんて：

色々覚悟して夜を迎えたが
拍子抜けするぐらい
いつもと何も変わらない

普段の授業を
真面目に受けてれば

直前で焦ってやる
必要無いんで

あー
それ

頭のいい人が
よく言うヤツだね

まるで何もなかった
かのように普通に
会話をしている

まあでも：

当たり前か：

あんな事：
女性の口から簡単に
話し出せるわけじゃないよな

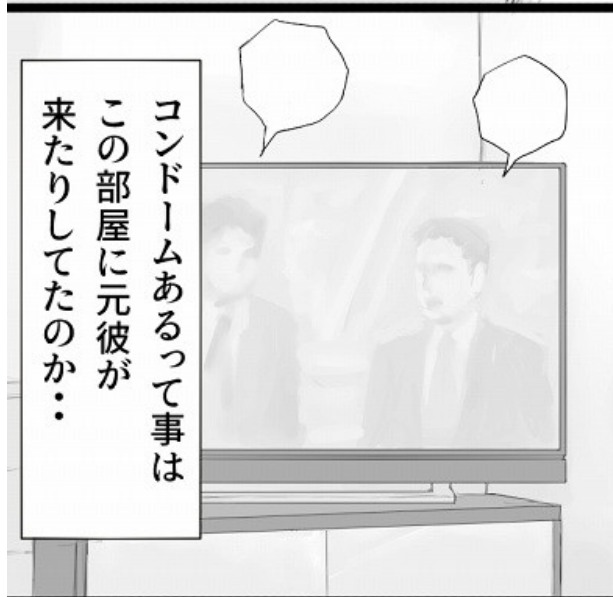
でも：

表情も態度も少しの
変化も無いのは：
どういう事なんだ

……

まあ……この人の場合
色々和普通じゃない所
があるから：

本当に何とも思っていない
可能性もある：
かもしれない：



コンドームあるって事は
この部屋に元彼が
来たりしてたのか：



りな姉ちゃん：

コンドーム
部屋に置いてたな：



彼女が今誰と付き合ってるか
なんて知りもしないのに：



いやまてよ：
なんで元彼だと思
ったんだ俺は：

今だって付き合ってる
かもしれないのに：



・・・



自分の欲望のために
一線を越えて：

それなのに俺は：



俺：何も知らないんだ
りな姉ちゃんの事：

ただ一緒に住んでるだけ：
その程度の関係でしか
ないのに・・・

毎日のように
自己嫌悪を繰り返すが
そんな事には関係なく
勝手に時間は進んでいく



特に何の変化も無く
ごく普通の日々が過ぎていき



気が付けばいつの間にか
夏休みになろうとしていた

あれから二人ともあの事には
一切触れようとしらない



何も話さないから
何の進展も解決もしない
あの時から止まったまま



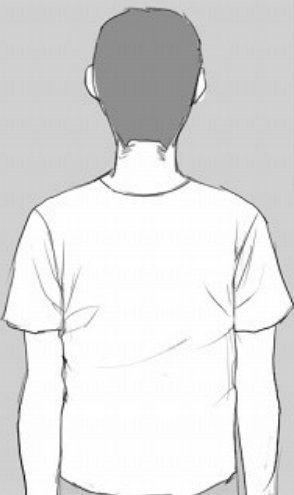
罪悪感とか後ろめたさとか
自分の中の色んな感情も
行き場を無くしたまま：

本当はそれを解消したい
しなければならぬのに



やらなくても普通の日常を
送ってしまうからそれを
壊すのが怖くて踏み出せない

・・・



やっぱり：

自分でやった事は自分で
ちゃんとケジメをつけないと
ダメだよな：俺の方から：



いやあ：無理だなー
自分からは無理だ絶対：



何も出来ないまま
毎日が過ぎていく



このままじゃダメだな
どうにかしないと：



ちやうど夏休みだから
いったん実家に帰って
落ち着きたい所だけ

うちの学校
夏休みの半分ぐらいは
普通に授業あるからな：



帰れても2、3日
ぐらいか：

どうするかな：



カチ



あれ以来なかなか寝付け
ない事が多くなっ：



ギシ
ギシッ



ギシ

ギシ



ギシ

ギシ



うっ

ギシ

ん

ギシ

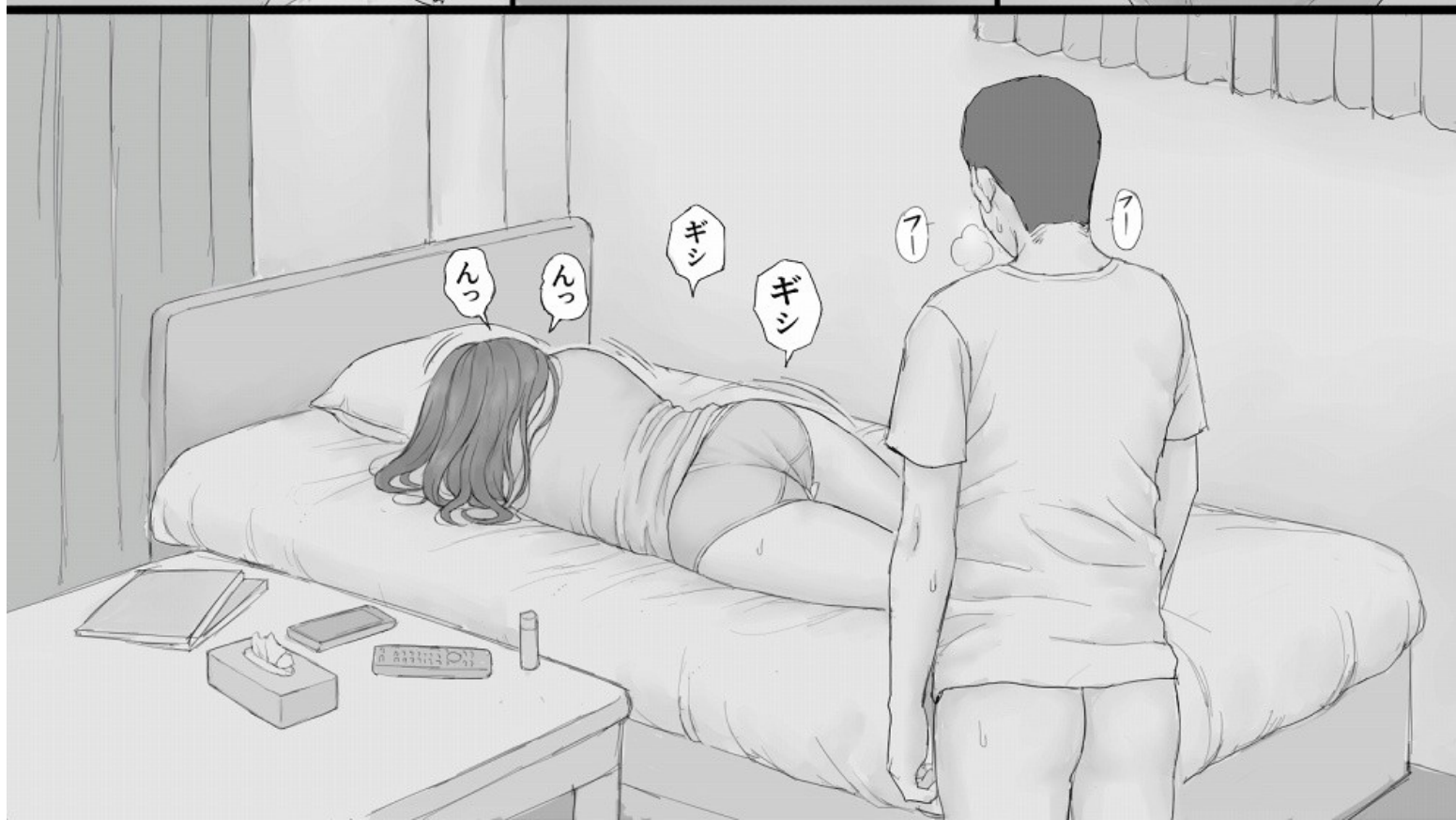


ん

ギシ

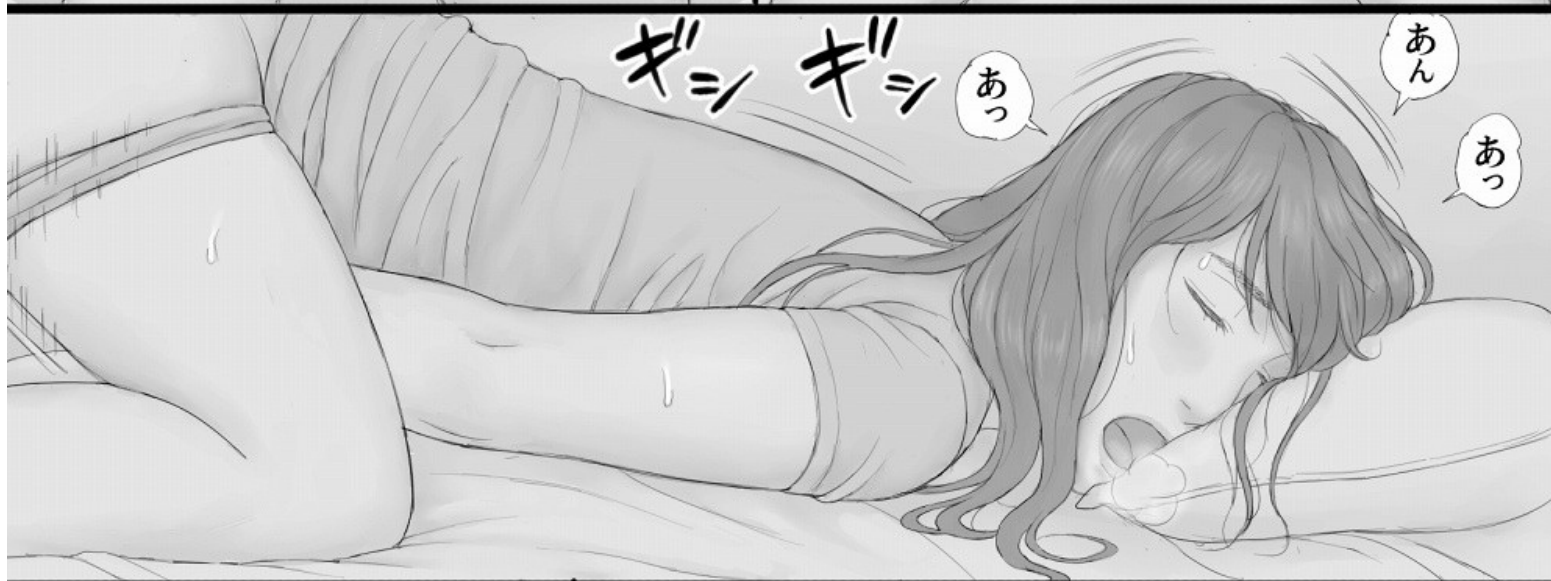
ん

ギシ













あんっ
ちよっ
あっ

じゅん
じゅん

ドン
ドン
ドン



やんっ
あっ

待つ…



中が…すごい…もう
ぐちよぐちよだ…

ドン
ドン
ドン



んんっ
うんっ
んっ

ドン
ドン
ドン



ズンズンズン



パンパンパン



エロすぎる…この感触…
この動きも…何もかも…
エロすぎるんだ…

こんなのもう…
狂うに決まってる…

グニ

パンパン

アッ

アッ

パンパンパン

あっ

あっ

ああっ

あんっ

ガク

ガク

あああ

いく

また

く

ズンズンズン

んっ

んっ

ん





逃げ帰るように
部屋に戻り：

いっさい何も
考えない様にして
眠った

翌朝、彼女が目を
覚ます前に家を出る
学校は休みなのに
登校日という事にして

朝に彼女と顔を合わせる
勇氣はなかった：

俺はなんで
こんな生活
してるんだっけ：

この同居生活は：
親戚の人達が俺の為に
提案してくれたものだ

皆でわざわざ話し合って
俺の為に一番いい方法を
考えてくれて：それで：

・・・

何をやってんだ俺は：
こんな場所で
こんな情けない事に：

彼女が出勤する時間が
過ぎてから家に戻る

同居してる親戚に
欲情して我慢できずに
手をだした事だけか：



結局：俺がここに
来てやった事は：



俺はここで・・・
家事のほとんどを
一人でやってる



いや・・・さすがに
それだけじゃないな
他にもあるだろ
俺がやった事・・・



俺の・・・俺のおかげで・・・

洗濯も料理も俺がやってる
俺が来たおかげで彼女の
生活は相当良くなったはず



最初この家はゴミ屋敷
一歩手前の酷い状態だった
それを全部掃除して
綺麗にしたのは俺だ



俺は・・・

ここに来るべきじゃ
なかったのかもしれない

